エンジニアパーク　Engineer Ring Park

佐藤　典之　建設部門（港湾及び空港）／総合技術監理部門
勤務先：北日本港湾コンサルタント株式会社

私は 1999 年（平成 11 年）５月に今の会社に入社しましたが、それ以前は 15 年間、東京の建設会社に勤めておりました。札幌に来て早いもので６年が過ぎましたが、大学までを旭川と札幌で過ごしていたこともあり、改めて、梅雨がなく四季の変化がはっきりしている北海道は暮らしやすいと実感しているところです。

さて、私は港湾に関わる数値解析を主たる業務としておりますが、ここ数年のパソコンの進歩によって、数年前までは考えられなかったような高度な解析が、パソコンでも実行可能になってきました。これによって、近年に多発している自然災害の原因解明や対策方法の一助としても、数値解析の役立つ機会が増えてきています。このように、数値解析は適切な入力条件を与えれば答えが得られる便利なツールではありますが、大事なことは出てきた答えの妥当性をいかに判断するかという点であり、ここに技術士としての能力が求められていると常々考えて業務を進めております。

最後に私事ですが、仕事上、体を動かす機会が少ないので、健康のためにと３年前から週１回の水泳教室に通い続けています。当初は、クロールすら満足に泳げませんでしたが、今ではバタフライもある程度泳げるようになりました。その甲斐あって、ほとんど風邪もひかず、病気らしい病気にもかからなくなったので、今後も健康には気を遣いつつ、公私共々充実した日々を送りたいと考えております。

次号は、河野修一さん（建設部門）

熊井　敬明　機械部門（建設機械）　勤務先：三菱重工業株式会社　北海道支社
TEL(011)261-1544　FAX(011)221-3563　E-mail：noriaki_kumai@mhi.co.jp

私は、松江市から渡道してきた道産子３代目の札幌生まれである。雪国である北海道に人が居住する限り、安心して暮らすためには、特に冬期においても経済活動の動脈となる道に積もる雪を如何にしてうまく処理するかが永遠の課題である。変遷する時代の社会環境に適合させる道具として、速やかに安全に雪を処理する除雪機械の飽くなき進化が求められ、また北海道のインフラ整備に必要な建設機械や設備機械の技術開発などに私は携わってきた。現在は、総合技術力を擁している組織に潜在するシーズを如何にニーズとマッチングさせるかを思案しているところである。

今後、更に自然災害に強いインフラ整備を進めて行かねばならない中で、かなりのインフラが整備されているが、逆に北海道の GDP は全国比 3.5%程度と縮小し、北海道経済の存在意義が低下している。北海道の GDP 上昇のためにはインフラを効果的に活用できる製造業を如何に発展させるかがキーと言える。

しかし、道内の製造業における技術創造の核となる機械、電気・電子、金属部門の技術士は僅か４％弱しかいない。それは製造業界では機械設計業務に携わる場合の資格取得の縛りは皆目であり、また機械部門の技術士資格の特典は特に何もないためと言える。全国でも機械部門の登録者数は僅か６％である。

北海道から世界に向けて発信できるプロダクツの源泉となる知恵や技術の創造力を強化するため、機械や電気・電子部門技術士の増強に腐心するとともに、その力を結集する必要があるのではないだろうか。

次号は、赤間英一さん（機械部門）